

新編

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、議、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年11月17日(月)

「熊本県学力調査」に向けて

【雜感】学習には読書が必要

一七八四の熊本県知事の調査報告書にも記述があるが、寺
は「べへへ…」との趣が聞こえてくるが、寺
力調査の「問題文の整理」や、「複雑」と云ふ品
象があるからやつておせよ。だが、毎年高額な販
賣手帳の特徴として「読書の質」、「読書の量」
が高まっているのがわからぬ。本を多く読むので
ないかせば、問題を少しきらりと理解して、「何を問
われてこうね」と思はせた上で問題を理解していく形
す。必要な情報を探し出し、それを活用する
してそれをアプローチするしかでないから
のです。今、文部省が考案した問題を求めてこれ
かさしのよければやがたのう。

子ども達が生むる未来社会(2)

子ども達が生きる未来社会

は、人生100年時代ですか。
寿命の長期化によつて先進国
の2007年生まれの2人に1人
人が100歳まで生きる「人生
100年時代」が到来する。1
00年間生き残りたいと願つた
人生設計の必要性がある訳で
す。これまでの人生設計は「2
0年学び、40年働き、20年
休む」といつ「教育・仕事・老
後」の3段階が一般的でした。
しかし、100歳まで生き残る

とが一般化する社会で、人生の選択肢が多様化していく人生で働くのがなくなれば、勞働による収入がないなら、勞働直しや転職、長期休暇の取得など予想されるのです。今は、100歳まで働けばならないのがいつこの物でもあるわけじゅうが、そう簡単にほいかないのが現代社会です。人生設計そのものを根本から考え直す必要があるのです。

では、何をすればいいのかへんそんなどすぐに数十年先の社会を貢献できるといつてはいいのですから、必ずしも達がやりなければならないのに、主体的・協働的な発展です。そして身に付けた知識理解を基にして創造的な活動をすることが望まれます。新しいものを作り出すにはこれまで、新しいことにチャレンジするかじめが重要です。そのため姿勢や考え方から見みると、未来に備えたことが大切です。

シリーズ「自分を語る」#52

事の濃い思い出は、ほんわかした充実感、友だちとの繋がりの強さを感じる事ができる瞬間です。千名町小学校では、ナイトハイクや強歩会では必ず班を編成しそうだったので、途中で投げ出されることはございませんでした。この班に参加させてもらいましたが、仲間が荷物を持っていたり、声を掛け合ったりしたから、全員の田舎へ向かってチームで協調的行動しながら進むことができました。その結果、達成感や充実感、友だちとのつながりを感じる事ができることが出来ました。「この年のやがての中」歩くことで苦手な子がいました。彼は参加をためらっていましたが、返達からの誘導によって参加を決めた子です。彼が「一歩する前の数時間、班のメンバー一起頭を抱き合って歩いていました。本人は「途中何度もやめたいと思った」と語っていました。その後の彼のセリフは笑いました。周りの者は「一緒に歩き通すよ。」とか「問題ない。」と話を掛け入れてくださったのです。行事が終わって本人に「歩き連れてね。」と話を掛けねじり返しました。

たので、(班のメンバーを揃わうとして)私が無理矢理やられてきた。仕方なくやられた」みんな大笑いでした。この子の卒業文集にはこの年生の最高の趣に由つて「ナイトハイク」のことが書かれていました。その文書の中にはこんな一節があります。
「世へはナイトハイクの時、参加しなければよかったり向日眼鏡をついた。でも、歩く距離をしたがでやめました。なぜかといふと夜になればまぶい張ったからです。その時はくせに汗してしまいました。でも、今は感謝している。たぶんこれが初めて2-1の星を貰ひたかったらしく、最初で最後の挑戦したのです。」
彼はその後のナイトハイクのサポート上記一度も来ませんでしたが、体重を落としたねはなりましたが、それでもだしあげたのです。今では毎日同じくらいの体重ですが、体重が落ちたり軽くなつた気がします。現在彼は24歳ですが、外見年齢で活躍しています。
平成の年度末、私は校長室に呼ばれました。年度末と同時に新校では次年度の組織などによつてくるか大忙しの時期です。何とか、状況を悟りました。「何をしゃべるのですね」といふだけです。」とおおげさにつづつお詫びして入りました。

「おかげでしたわよ。」 「。。。」
「先生、来年度の学生の預望はありますか？」 「じゃあ、どの年生をい僻んでおおまか。」「今年生せいりゆゑー。」 「えー」
組織を離れた末の校長先生の決断ですか？ 嘘とばれて取立ました。まあ、何かあるのだからと思つてはしまつたが、1年生の担任がそれによって増つて、遺の甲斐が感じられないものだよ（科長せいりゆゑ）。前年度の先生の限界が限界だからね。自分の力をつけた教諭である今の立場からして結構な立派な判断だよ」と。
平成10年度に担任せりて頂いた学級は、学級の中に不登校傾向のおもてんだらいました。（僕は地獄に鬱うてこもるので仕事増やされや）不登校傾向の理由は、ひどい。【忘却】です。申し送りで【忘却】による人の突然の不足でさかいたのがはなづかといひとくを、私個人の感覚として感じました。（うう）